

【特別企画】

全国トラックドライバー・コンテスト 内閣総理大臣賞 受賞記念インタビュー

【取材協力】西濃運輸株式会社



4トン部門優勝、そして内閣総理大臣賞を獲得した伊藤さん。

全国トラックドライバー・コンテスト(主催:公益社団法人 全日本トラック協会)は、運転競技や学科競技で競い合い、プロトラックドライバー日本一を決める大会です。昨年は西濃運輸株式会社 深川支店の伊藤主将^{（しゅじょう）}さん(4トン部門)が総合得点第1位となり、栄える内閣総理大臣賞を獲得しました。ここでは伊藤さんの喜びの声をお届けします。

ドラコンを通じて交通法規の大切さを改めて実感できました

普段の業務内容を教えてください

東京都中央区を中心に、4トン車で配送業務を行っています。ドライバー歴は12年ほどです。また配送のほか、ブルーリーダーやドライバー教育を行う安全推進インストラクターも担当しています。高校生の時は原付きバイクでデリバリーのアルバイトをしていて、その時から物を届けることは自分に合っていて、やりがいを感じていました。ですので、就職先もトラックに乗る仕事を探していたところ、西濃運輸の求人があり先生からも勧められて入社を決めました。

大会に出場するきっかけは?

2022年に推薦がありましたが、ドラコンは名前を知っている程度でした。いろいろと調べていくうちに挑む価値のある大会だと思い、モチベーションが高まりました。ただ、妻の出産と重なったためその年の大会は見送り、23年に挑戦することに。今でも覚えているのですが、出場をお断りした時に冗談ぽく「来年優勝しますよ!」と伝えたんですよ。そうしたら本当に優勝できて、ちょっと信じられませんでした(笑)。

全国大会に向けてどのような練習をされましたか?

実技はインストラクターとして実践している運転でカバーできましたが、課題走行のバックスローームは、普段の運転では習得できないもの。日野自動車のお客様テクニカルセンターを借りて練習できたことで、本番うまくいきました。一方で学科は時間をかけて勉強をしました。仕事の合間や帰ってから、ひたすら過去問を解くという感じで。仕事と育児、そして勉強となると時間が足りず、協力してもらった妻には大変感謝しています。

西濃運輸は前回大会も優勝者を輩出しましたがそのプレッシャーはありませんでしたか?

特になかったです。むしろ頑張れば優勝できるんだ、という励みになりました。前回大会で西濃運輸は初めて優勝しましたが、受賞者がいるとなると自分でもやれるのではと思いました(笑)。

どのような気持ちで競技に臨まれましたか?

順番が近づいてくるにつれてすごく緊張が高まり、トラックに乗った時がピークでした。良かったのは順番が早く、待ち時間が少なかったこと。過去の出場者から「最初の方が絶対良いよ」と聞いていて、その意味が分かりました。終わればひと安心して待っているだけですからね。競技自体はミスもなく、普段通りできたので入賞できれば良いかなと思っていました。

受賞の瞬間の感想をお聞かせください

4トン部門では5位、4位と発表されても名前は呼ばれず、残り3人になってもうダメだなと(笑)。また来年かなと思っていたら、まさか1位で呼ばれてビックリしました!さらに内閣総理大臣賞の時は、表彰式はライブ配信もされていたので、携帯がずっと震えていて。動画を撮ってくれていた先輩はすすり泣くほどで、みんなから祝福されました。

普段から安全運転のために取り組んでいることは?

“車間距離を広くとる”ということです。事故件数の多い追突事故をどう防ぐかという、やはり車間距離を保つことになります。前方車両が急な動きをしても車間距離があれば回避できます。今回、運転技術はもちろん交通法規の大切さも学べました。この経験(は後輩の指導にも活かしていきたいと思っています)。